

競技実施要領

1 競技規則

令和8年度版全国障害者スポーツ大会競技規則「ボッチャ競技規則」によるもののほか、この要領の定めるところによる。

2 競技方法

- (1) コートの大きさは、12.5m×6mとし、スローイングボックスは3番と4番のみとする。
- (2) 1対1の個人戦とし、3～4名のリーグ戦とする。また、**リーグの終了後、各リーグの1位同士による順位決定戦を実施する（オープンの部除く）**。なお、試合日程の都合上、リンク戦を行う場合もある。
- (3) 試合は、2エンドを行い、2エンドの総得点で勝敗を決定する。同点になった場合は、タイブレイク（ファイナルショット制度）により勝敗を決定する。
- (4) ジャックボールを含めた投球時間の合計は、1エンドあたりそれぞれ5分とし、タイブレイク（ファイナルショット制度）の投球時間はそれぞれ1分とする。
- (5) 投球位置は赤ボールを投球するサイドは3番、青ボールを投球するサイドは4番のスローイングボックスに配置する。
- (6) ジャックボールの投球順序は、第1エンドは赤ボールの選手、第2エンドは青ボールの選手とする。
- (7) 投球練習は試合を始める前に6球のボールと1球のジャックボールを2分以内で投げることができる。全てのボールを投げ切るか、2分が経過したとき、投球練習を終了とする。
- (8) エンドとエンドの間では、コーチやスポーツアシスタント、ランプオペレーターは、次のエンドのためのボールを回収し、選手に必要な助言を与えることができる。
- (9) 競技がすべて終了し勝敗が決したとき、審判は選手に勝敗と得点の確認を行い、選手は結果に相違がない場合は承諾のサインをする。承諾サインをした後、選手はコートから退出することができる。
- (10) 各リーグの順位は①勝敗数、②勝敗数が同じだった場合、直接対決による勝者、③①②で決まらない場合は得失点差、④③で決まらない場合は総得点により決定し、それでも決まらない場合はタイブレイク（ファイナルショット制度）により決定する。

【タイブレイク（ファイナルショット制度）】コート中央のクロスにジャックボールを配置し1球ずつ投球してジャックボールにより近いボールを投球したチームを勝者とする。

- (11) 棄権者が出た場合、相手は不戦勝となり、相手の得点は6-0となる。また、当該試合を棄権した選手は残りの試合への参加を認める。

3 違反行為

- (1) ラインを踏む、もしくはボックスの外に足や補装具が接地した状態での投球、ランプの先端がボックスの前ラインより前に出たまま投球した場合。
- (2) 審判の指示がある前の投球。または指示がない選手の投球。
- (3) ランプを使用する選手のランプオペレーターが、試合中にコートを見たり、競技に介入したりする所作を審判が認めたとき。
- (4) (1)～(3)の違反行為があった場合、投げたボールは取り上げ（リトラクション）となる。

4 スポーツアシスタント・ランプオペレーター

- (1) 移動したり、方向を変えたりすること、自分で投球準備をすることが機能的に困難な者にはスポーツアシスタントを1名、ランプ使用者にはランプオペレーターを1名のみつけることができる。
- (2) スポーツアシスタント及びランプオペレーターは移動すること、方向を変えること、投球することに対して補助するもの（ボールを握らせる、ランプの操作、ボールのセット）であって、選手の意思を離れて競技に介入することは許されない（エンド間以外、選手への声かけは禁止）。

5 試合球

- (1) ボールは赤色ボール6個、青色ボール6個、白色のジャックボール1個で構成される。
- (2) ボールの表面は革製（人工皮革を含む）、大きさの基準は重量275g±12g、周長270mm±8mmのものを使用する。
- (3) 競技で使用する試合球は、主催者が用意したボールを使用する。ただし、自身で用意したボール（公

認球のみ可) を使用することもできる。

(4) 自身で用意したボールを試合で使用する場合は、コールルームに持参して検査を受けなければならない。

6 投球補助具(ランプ)

(1) ランプは、付属品、延長部、基本部分を含めた最大最長の状態にして横に倒したときに、2.5m×1m のエリア内に収まるような寸法でなければならない。

(2) ランプは、ボールを投げることのできない座位の選手が、勾配を用いてボールを送ることを目的としたものであり、加速や減速、狙いを定める機器をつけてはならない。

(3) ランプは、ランプオペレーターを要して投球する区分の選手が使用する用具であり、投球する際にはボールに触れたり、押したりして自分自身でモーションを起こさなければならない。そのため投球に機械的な補助を設ける機器(スイッチで自動投球する機器、ジョイスティックでランプの方向を決める機器等)をつけてはならない。

(4) ボールを投球する際に、ランプの先は、接地しているかどうかに関わらず、スローイングラインより前には出ない。

(5) 試合中いかなる局面においてもランプをスイングする必要はない。

(6) 投球の補助に使用する用具は、ランプのみ主催者より貸出を可とする。その他については各自にて用意すること。

7 投球補助具(その他の用具)

(1) ランプにセットされたボールをリリースする選手が使用するポインターの長さに制限はない。

(2) ポインターは、選手の体(頭部、口、腕、脚など)に直接装着しなければならない。

(3) ボールは、ポインターを使用する選手の力によってリリースされなければならない。

(4) ボールのホルダーを昇降させてリリースすることは認めない。

(5) 紐、リボン、布などはポインターとして認めない。

(6) 投球する手首や手指をテーピングやベルト等で固定したり、ボールを固定する装具をつけることは認められない。(グローブの使用についても不可)

8 ゼッケン

主催者の用意したものを、審判の見える位置(選手は正面胸又は足、ランプオペレーターは背中、スポーツアシスタント、コーチは正面胸)に付けること。

9 招集

(1) 招集は各試合開始 5 分前に試合を行うコート前に行う。選手及びスポーツアシスタント・ランプオペレーターは、競技用具を持参しコートに集合すること。招集時間に現れなかった選手は棄権とみなし、試合に出場できない。また、招集時間に現れなかったスポーツアシスタント及びランプオペレーターは試合に参加できず、持参されなかった競技用具は試合で使用できないものとする。

(2) 全選手が揃った後に投球順序をコイントスで決定する。※先攻(赤)、後攻(青)

10 競技進行

競技は、原則、プログラム記載の時間で実施するが、競技の進行状況により、追い込み方式で行う場合がある。なお、その場合は変更内容を場内アナウンス及び競技本部席に掲示する。

11 コート開放及び練習コート

会場に練習コートを設ける。練習コートを使用する場合は、譲り合って使用すること。

12 表彰

(1) 各リーグ、3位までの選手にメダルを授与する。ただし、3名以下のリーグでは1位の者にのみメダルを授与する。

(2) ランプオペレーターもメダル授与の対象とする。

13 開閉会式・表彰式について

開閉会式ともに実施するが、閉会式は表彰式後に続けて実施する。

14 申し合わせ事項

この要領に定めのない事項については、開会式で競技上の説明・注意事項の伝達を行う。